

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご本人の意向を聞き社会参加につながることをできるだけ見つけ認知症になっても楽しく生活できるよう支援している。職員は理念を理解し地域の行事への参加も積極的に行っている。	職員はミーティングを通じて「元気に楽しく過ごせるように」との理念を共有し、笑顔で楽しく接して自立に向けて支援しています。地域の行事にも積極的に参加して利用者が楽しい時間を過ごせる様にしていきます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物などで近隣の方とも顔見知りになり、ボランティア活動をして下さるようになった。また、町会の行事には声をかけて頂き盆踊り、お餅つき、踊りの発表会などに出掛けている。	利用者は散歩や買い物などで近隣の人と顔見知りになり、その縁でボランティアの人がお茶やフラダンスを教えに来ています。事業所は隣接する森を守る会の人にトイレや休憩の場所を提供しています。町会の様々な行事にも誘われ、参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症状のある近隣の方が、毎日のように遊びに来られ安心できる自宅での生活を支援することが出来ていると感じる。また、ボランティアの方が認知症の方の接し方を知ることでボランティア活動においても自然に関わって頂けるようになった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見交換によりクリスマス会や夏祭りでの準備から皆様にお手伝いをして頂けるようになった。ご家族も参加型のケアやレクに結び付けている。	運営推進会議は2ヶ月に1回テーマを決めて実施しています。意見交換の中でクリスマス会や夏祭りなどに家族も準備の段階から参加して一緒に協力して楽しむことになりました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症の方々の社会参加の機会を行政や包括と一緒に考え、プラチナカフェ、松戸まつり、RUN伴へのイベントに参加・協力している。人材確保のに関する取り組みとして合同就職相談会にも参加協力している。	認知症の人たちの社会参加を行政や包括と一緒に考え、「認知症サポーターキャラバン」のマスコット作りをしています。松戸まつりや認知症の人のやりたいことを共にチャレンジするRUN TOMO (RUN伴)のイベントや人材確保のための合同就職相談会などに参加して連携を取っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所当初から玄関の施錠はせず実施している。そして自分の力で歩くことを大切に、解除しながらでも少しでも歩いてトイレに行くこと、車いすを自走することを見守り介助しながら活動の制限をしないようにしている。	玄関の施錠はせず、利用者が望んだ時は職員が寄り添って対応しています。利用者の残存機能を低下させないように少しでも歩いてトイレに行く、車いすを自走する事など安全面に気をつけ見守りながら介助し、活動の制限をしないようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、身体拘束の研修をすることで職員間で言葉遣いに注意し、ご本人の思いを理解するようにミーティングで情報交換している。そして行動制限につながらないようにケアの工夫に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は制度を理解し必要に応じ検討できるようにはなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の前にご本人が施設への見学をお勧めし、面談をさせて頂くことによりここでの生活に対する不安を軽減できるようにしている。ご質問には丁寧にお答えし契約内容にご理解いただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の訪問もありますが、来所されたご家族とのコミュニケーションの時間を大事にし、顔に見える関係性を高め、ご意見を伺いやすくなっている。また、家族会として、行事へのお手伝いと家族同士の交流の時間が増えている。	運営推進会議で意見が出され、行事の手伝いなどで家族の来所の機会が多く、家族同士の交流も深まり、意見の言いやすい関係ができています。介護相談員の訪問もあり、利用者、家族の意見を聞く機会も多く家族の提案で歌の会が出来ました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで話し合いが出来るように議題をノートに書き出しておき意見交換をしている。基本はご利用者を第一に考えるようにしている。	管理者は職員からの意見が出しやすいように月1回のミーティングは前もって議題を書き出して実施しています。職員の要望を受け入れ子供同伴の勤務や休暇もしっかりとれるなど、働きやすい職場づくりに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤者は負担になりすぎないように意見交換しながら勤務状況に配慮し、パートは勤務時間をそれぞれに合わせ、子供との時間を大切に出来るように子供連れでの勤務を可能にしている。また、個々の目標を聞き取り仕事への意欲・向上を図っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修については松戸市内で参加しやすいものもあり参加を促している。施設内ではミーティングで研修を行い現状に合わせ知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会における管理者交流や勉強会を通じ、他事業所との交流が出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や担当ケアマネからの情報を頂きながら、施設見学を通しご本人との面会においてここでの生活をイメージできるようにまた安心していただけるよう時間をかけて話をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設に入ることによって家族と離れてしまわないように一緒に介護していくというイメージを持って頂き、ここでの生活の様子がわかるような資料や写真を活用し不安の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の担当ケアマネからも情報・意見を頂きながら、管理者・計画作成担当者・医療職とが協議する事で、多方面から捉えここでの生活に早く馴染んで頂ける様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まずは、ここに誰がいてどんな話ができるのか、皆さんとのコミュニケーションを大切に、安心感を感じて頂ける様にしている。徐々に一緒に楽しめることを考えていきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も参加型の体制を少しずつ増やしています。外出・外食などにも一緒に参加して頂いたり、日常においても食事や口腔ケアや入浴などにも関わって頂くことが増えてきました。一緒に過ごして頂く時間を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室や図書館や外食の場所など馴染みのあったところへの外出の機会は継続して行っています。友人の訪問やはがき等のやり取りもご家族と協力しながら行っています。	毎月1回「ひなたぼっこだより」を家族に送り利用者の近況を知らせています。美容室や外食など馴染みの場所への外出や利用者が「図書館に行きたい」との希望に沿って蔵書の豊富な県立図書館に案内して馴染みの場所作りをしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士の会話や囲碁・将棋の対局をそれぞれが楽しまれています。また皆さんと過ごして頂ける様にリビングで体操やレクを工夫して行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にご様子を伺ったり、ご家族が来所して下ったり、ここでの生活での感謝の言葉を伺い私たちが元気を頂いております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活を伺った中からここでの生活を今までの様に活動して頂ける様にご家族と共に考え、今後に向けてご希望を聞き取り生活に取り入れるように工夫しています。読書や囲碁・将棋の時間が出来ている。	入居時に利用者の今までの生活や趣味などを本人、家族に聞き把握し、今後に向けての希望を聞き取り生活に取り入れています。日常生活する中で思いや意向をくみ取り、困難な人には家族に聞いたり、表情、態度で把握しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取りや担当ケアマネからの情報から自宅での生活状況、好きな音楽や習い事など日常に取り入れながらご本人に聞き取り思いを伝えて頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事や排せつ・歩行状態・口の中まで観察し健康状態の把握に努め、表情やご本人の言葉にも注意し穏やかな時間が過ごせるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングでケース検討会議を行っており、各職員が受持ちについて援助計画を考えみんなで検討しています。担当者はご家族や医師・歯科医師・リハビリ・看護師等とも連絡を取りご本人の状態に合わせて介護計画を作成しています	毎月のミーティングで各職員が受け持ちの利用者の援助計画を考えて持ち寄りケース検討会議を行い検討しています。担当者は医師、歯科医師、リハビリ、看護師、利用者、家族と連絡を取り合いモニタリングを行い介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録において状況の記録だけでなく、実行したこと考察したことも記録しています。また、ご本人の言動もそのまま書き込み記録に残すことで本人の意向につながるようにし職員も共有できるように工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の方が社会参加が出来るように取り組まれたプラチナカフェに参加しました。デイサービスとの合同で毎年温泉旅行を計画し同行しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館や近くのコンビニを利用し馴染みの場所が増えています。また近隣の方がお散歩のコースとしてホームに立ち寄り馴染みの関係となり入居にまで至っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅の時から主治医が引き続き担当されることもあり、状態の変化や不安に感じることが担当医師に報告し指示を頂きやすい関係性が出来ています。	入居後も引き続き在宅時のかかりつけ医に月2回訪問診療に来てもらうなど複数の医療機関と関係を密に結んで適切な医療が受けられるように支援しています。希望者には歯科など他の診療も受けられるようにしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	早期発見の観点から、介護職員は小さな変化にも気づくとまずは看護師に報告します。看護師とは相談しやすい環境でもあり、様子を見ながらすぐに対処できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時サマリーを活用しホームでの生活の様子やケアの内容を伝えている。入院中は家族からの情報と面会等から状況の確認します。早期の退院に向け受け入れ状況を伝えMSWとの連携をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化・美利に関する指針を伝え同意を頂いています。また状態の変化に伴い確認書を交わすことでホームの意向と本人・家族の意向を統一することが出来ます。ホームではお看取り後も居室にてお別れ会が出来るように祭壇を作り法要も行われ家族・親戚・知人の方々から来られました。	入居時に重度化や看取りに関する事業所の指針を本人、家族に説明し、方針を共有して同意書を交わしています。重度化した場合は本人や家族の意向を踏まえて確認書を作成し、医師、職員が連携して看取りを行っています。家族、職員、親戚、知人、一緒に生活している利用者に囲まれてお別れ会も行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法のDVDを活用しながら研修を行っています。また、マニュアルと事例を通し再確認を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の防災訓練をし、全員の安全確保に努めました。1. 2階の連携が難しいが入居者の協力が得られるようになり動きもよくなっている。	防災訓練は年2回行っています。夜間地震を想定した訓練で安全確保を目的にした訓練を行っています。ベランダに避難、利用者ヘルメットをかぶせて安全確保に努めていたが難しさを感じています。	色々な災害が起こることが想定されず。事業所だけでの避難は難しいと思われれます。地域消防団などにも協力を要請するとともに機会をとらえ地域の協力体制の構築を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「ありがとうございます。」の気持ちを大切に、「寄り添う介護」が出来るような接遇の研修をしています。利用者一人一人に挨拶をすることで職員も気持ちの切り替えが出来ます。	職員は利用者とかかわりの中で、「有難うございます」と感謝の気持ちを伝える言葉かけを大切にしています。食事、排泄、の時なども一人ひとりに合わせてプライバシーを損ねないように小さい声で話したり、さりげなく働きかけるようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	昔の話から好きなことを知り、歌・囲碁・卓球・茶道・華道・読書・歌舞伎など楽しめることを日常に取り入れています。毎日の生活の中で言葉にされることを本人の意向として記録に残すようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「自分でできることは自分でやります」と部屋の掃除や洗濯や食事の準備やかたづけ迄、自ら声をかけてくれています。そして自分の時間は自室で過ごされたり、他者との交流、散歩・買い物など希望を聞きながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	部屋には季節に合わせた洋服があり、好きな洋服を選びお化粧品やアクセサリーを楽しまれている。洋服や化粧品を一緒に買い物に行きます。ある方は、口腔ケアの後に口紅をつけることをとても喜ばれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間は静かな音楽にし食事に集中できるようにしています。調理職員が手作りし食べやすく工夫し温かいうちに食事が出来ます。利用者が郷土料理を作りご家族にも振る舞って頂きました。季節ごとに餅つき、おせち、海苔巻き、おはぎ作りを長く続けています。	目の前で調理が行われ利用者も「今日はな～に」などの声も聴かれ楽しみにしています。調理職員は喫食状況を見て、食が進むように食べやすい形態にしたり、好みの梅干しなどを出しています。利用者は季節ごとの行事食も職員と一緒に作っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を活用し水分は10時15時にも提供する他、コーヒーやココア、ジュースや麦茶などこまめに提供しています。また、ご飯のお供となるものや食べやすいパンやゼリーや栄養補助食品を活用し栄養摂取に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士・看護師からの指導もあり歯間ブラシや口腔スポンジなどを使用して口腔ケアをしています。歯磨き粉が使用できない方には口腔洗浄剤を利用し、乾燥が気になる方にはジェルも使用し衛生に心がけ二次感染に注意しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「トイレに行き排泄する」ことを出来るだけ続けることで、失禁を減らし排尿等の動作を忘れないように支援しています。排泄チェックをし回数やタイミングが把握し、日中はリハビリパンツではなく布パンツに切り替えています。	トイレでの排泄を大切に支援しています。排泄表で個々の排泄パターンを把握してトイレに誘い、日中は布パンツ(利用者の状況に応じてパットも使用)で利用者の様子を見ながら支援しています。おむつを使用していた人がパンツで過ごせるようになった人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操と牛乳や乳酸菌飲料を飲むようにしています。食事が出る方、歩くことで出る方がいます。また、訴えが出来ない方はご本人のご様子から自然な排便が出来るようにトイレへの声掛けをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人に順番や時間の希望を確認し、体調に関係するときは看護師に確認し行きます。浴室に暖房やミストを、脱衣所には床暖房を使用し、好きな入浴剤やシャンプー等を、入浴後にはボディークリーム等を使用しスキンケアに努めています。安全・安心を配慮し二人介助で入ることもあります。	入浴は週2回を基本としていますが希望がある場合は個々に合わせ対応しています。好みの入浴剤やシャンプーなど入浴が楽しめるように支援しています。入浴を嫌がる人に対しては言葉かけをしたり、家族と一緒に入るようにして無理のないように対応しています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前は静かな時間を作り暗めの照明にするなど落ち着いた環境を作り、安眠につなげている。冬は湯たんぽを使用して下肢や腰を温めるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問の薬剤師は利用者の状態の把握に努め、常勤看護師と介護職と情報共有することで、確実な内服につなげています。出来るだけ内服の量は最小限になるようにDrと相談させて頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	不器用な方も初めてやることも床の間や壁の装飾のために頭を使い手を動かし意見を出し合いながら作品に関わっており、皆さんの積極性が素敵な作品になっています。茶道や華道、コーラスなどいろいろなボランティアが定期的に来られます		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのコンビニや牛乳屋、近所の方が手入れされている花畑に行き近所の方と立ち話をするなど近隣との馴染みは深まっています。またご家族と一緒に散歩や外食、外気浴しながらの歌レクなど日常の中に家族との時間が自然に出来ています。歌舞伎の観劇や温泉旅行などの計画もしています。	利用者が希望する時や職員の買い物の時など声をかけ、近所の花畑を見たり、食べ物、服、化粧品等、買い物をしています。利用者の希望を入れて家族にも参加を呼びかけて観劇や温泉旅行などにも行っています。外食や家に帰って食事や家族と過ごす時間も大切にしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所金庫にてお小遣いとしてご本人が使えるお財布をお預かりしています。いつでも、好きな物を外出しお買い物ができる様にしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方もいますが、電話を取り次ぎご家族とお話されています。また年賀状やお手紙のやり取りも支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく風通しがとても良く開放感があり落ち着いた空間です。和を感じる畳の場所には飾り棚と壁があり、皆さんと作成した季節ごとの作品を飾っています。皆さんの生け花の作品や書道も展示しています。プライベートゾーンとパブリックゾーンを分け食事や活動の場としての使い分けができています。リビングからはテラスや駐車場にも出入りでき、洗濯物干しや外気浴が出来ます。	リビングはテラスからすぐ外に出られて明るく開放感があります。また利用者の居場所作りを大切に、色々な場所にソファやテーブルが用意され、利用者が気に入った場所で、囲碁や新聞を読んだり、塗り絵などを楽しんでいます。利用者と職員が一緒に清掃をしています。畳の部屋には子どもが遊べるおもちゃも用意しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数で落ち着ける所にはソファを置きのんびりくつろぎマッサージや読書や囲碁・ポラントピアと将棋を楽しんでいます。居室をはじめリビング・廊下・脱衣所には床暖房を整備しており乾燥しにくく足元を温めているので体に優しくなっています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人が好きな物を飾り、家族の写真や思い出の写真や張り、小さなお仏壇があったり、TVや本や趣味の道具が置いてあります。居室で使い慣れたものや懐かしいものや作品を見ながらご家族とも落ち着いた時間を過ごされています。	事業所として家族が身近に感じられるよう家族の写真や思い出の写真を持ってきて貰い飾るようにしています。家庭で使い慣れた物や元気に時に製作した作品などが飾られてそれぞれの家庭の様子が感じられ、居心地の良く過ごせる空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で手洗した洗濯物をベランダ等に干したり、お部屋からベランダ迄掃き掃除をされる方もいます。自分の部屋やトイレがわかるように表示を工夫し、介助が必要な方にはカスタネットなどの楽器で呼んで頂くか人感センサーで訪室するようにしています。		